

# 千葉 絵理奈

合格体験記 早稲田大学+東北大学

IBDPでの大学受験(再掲)

1998年～2007年 日本の義務教育 2007年～2016年 シンガポールで国際バカロレアを履修

私は日本で小学校3年生を終了して、父の転勤に伴いシンガポールに住むことになり、インターナショナルスクールに入学した。それから Primary Years Programme、Middle Years Programme、IGSCE、IB Diploma Programme を履修して、IB Billingal Diplomaを取得した。

ハイスクールに上がる際にはCoordinated Sciences(理系向けの科学の科目)、Business、Geography、Japanese A(第一言語としての日本語)、English A Literature(第一言語としての英文学)、Accelerated Mathを履修した。9年生と10年生の間は理系の科目も文系の科目も満遍なく勉強し、その後の科目選択では学んだ科目の中から興味のあるものを中心に選べた。IB DiplomaではHL Physics、HL Japanese A: Language and Literature、HL Geography、SL Chemistry、SL Math、SL English A: Language and Literatureを履修した。



IB Diploma取得には最終試験に加えて、科目ごとにIAというレポート、Theory of Knowledgeという「知識」についての授業、Extended Essayという卒業論文、課外活動が課せられており、シニアハイスクールの二年間はあっという間に過ぎた。テストやレポートが多い中、ダンス部やチューター部などのクラブ活動は気分転換になった。IB最終試験が迫ってくると、過去問などを友達と送り合い共に勉強したことが今では思い出深い。忙しい学生生活だったが、同じ科目を履修する友達と助け合えたからこそ乗り切れたと思っている。

私は9年生から大学についてのリサーチを始め、ウェブサイトのみで様々な学部の内容を読んだり、夏休みに大学に足を運ぶこともあった。それから10年生から11年生の間の夏休みには受験したい大学と学部を決めた。更に私の高校では、大学のフェアや説明会が頻繁に行われており、早稲田大学も説明会に来られ、当大学の英語で授業が実施されるプログラムについて知った。建築や社会工学に興味を持っていた私は、早稲田大学の創造理工学部に出願し、合格した。出願書類の志望理由はアカデミックアドバイザーという進路相談の先生に添削してもらい、その他の書類発行も彼ら無しではできなかったと思う。この入試は年内に行われたため、次の年のIB最終試験には安心して臨めたと思っている。IB最終試験に対策においても、先生たちが個人個人と話す時間を設けてくれて、自分が努力しないといけない部分を明確にできた。

IB最終試験を終え、高校を卒業してからはすぐに日本に帰国した。早稲田大学の他にも東北大学の工学部を受験する予定だったからだ。高校を卒業して帰国してから、7月上旬にIB最終試験の結果が出た。その後、東北大学の工学部を受験し、合格した。秋から東北大学に入学することになった。

国際バカロレア取得者対象の受験方法は年々増えている。それだけ価値のある教育プログラムで学べたことはとても有意義だったと思う。今は、大学という新たなステージにおいて、新しいことを学び成長できることが楽しみだ。

1998年～2007年 日本の義務教育 2007年～2016年 シンガポールで国際バカロレアを履修



小学三年生の終業式が終わった春、父の転勤の為シンガポールでの生活が始まった。シンガポールのインターナショナルスクールでは英語での授業についていくので一杯一杯の日々が続いた。だが少しずつ環境に慣れ、授業に積極的に参加できるようになった。そして私は、2007年から2016年の9年間国際バカロレア一貫した教育システムである Primary Years Programme、Middle Years Programme (それに加えIGCSE)、そしてIB Bilingual Diplomaをやり遂げたのだ。

ミドルスクールの3年間では、課外活動などを通して同級生との交流を深めた。そして、この3年間はハイスクールの授業内容、レポートやプレゼンの知識の基礎を学ぶ重要な期間だった。そして、この土台を元にハイスクールの4年間で有意義なものにした。

ジュニアハイスクール(9・10年生)では Coordinated Sciences(理系向けの科学の科目)、Accelerated Math、Business Studies、Geography、Japanese A(第一言語としての日本語)、English A(第一言語としての英語)を選択し、Middle Years Programme 終了証書を取得すると共にIGCSEの試験も受けた。これらの成績を元にシニアハイスクールでの科目選択をした。シニアハイスクール(11・12年生)ではHL Biology、HL Japanese A: Language and Literature、HL Geography、SL Chemistry、SL Math、SL English A: Language and Literatureの6科目に加えTheory of Knowledge(知識論理)という授業、Extended Essay(卒業論文)、それにCreativity/Action/Service(課外活動)を全力で取り組む日々が2年間続いた。英語も日本語もどちらも第一言語で履修するのは物理的にも勉強内容の面でも大変だったが、グローバル化が進む中IB Bilingual Diplomaを取得するのは必要不可欠であると考え自分なりに努力した。11・12年生はとにかく忙しい毎日でスケジュール帳はボールペンの黒色で埋め尽くされた。朝、昼休み、放課後や空き時間はすべてIB Diplomaの勉強、課外活動、EE、TOKのプレゼンとレポート、各科目のIA(EEのようなレポート)、大学入試の書類・面接準備、に注いだ。精神的にも肉体的にも追い込まれるが、最後まで先生方にはサポートしていただき、本当に感謝している。それに加え、IB Diplomaを履修している生徒たち同士で一緒に勉強をしたり、共に課外活動に参加したり、助け合い、強い絆で結ばれ多くの「戦友たち」と奮闘した日々はかけがえのないものである。IB Diplomaを履修しながらの大学入試は大変だった。私の学校には日本の大学を含む多くの大学が訪問フェアを開催してくれたので、積極的に参加した。9年生の時に初めてフェアに参加しお話を聞かせていただいたのが名古屋大学であった。その夏、私は名古屋大学を訪問し、名古屋大学インターナショナルプログラムの理学部入学を目標にハイスクールの4年間モチベーションを維持した。他にも早稲田大学先進理工学部も受験し合格した。私は、様々な科目に興味を持っているが特に興味を持っているのが生物学である。遺伝学、保健学、発生生物学などをより深く学びたいという思いから今年の秋に名古屋大学理学部生物学科に進学する。今から考えてもハイスクールの4年間はあっという間であった。あの4年間は大変だったが、楽しかったと今では感じている。大学という新たなステージでどれだけ自分の知識や経験を高められるかが私の次の目標である。